令和４年　８月　２３　日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　　上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語８２人	算数８２人	理科８２人
第５学年	国語７９人	算数７９人	理科７９人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

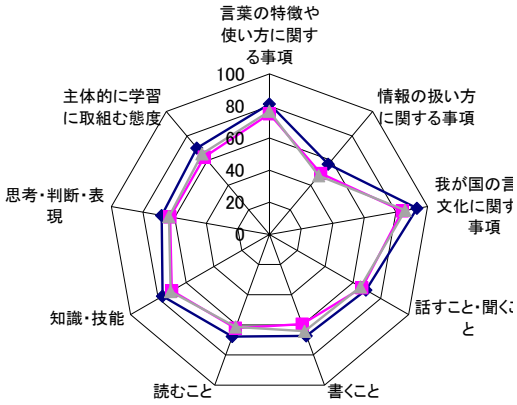
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.2	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	57.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	93.4	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	69.5	66.5	65.5
	書くこと	67.4	59.6	64.2
	読むこと	67.8	62.2	61.5
観点	知識･技能	76.9	70.2	71.1
	思考･判断･表現	68.2	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	70.3	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

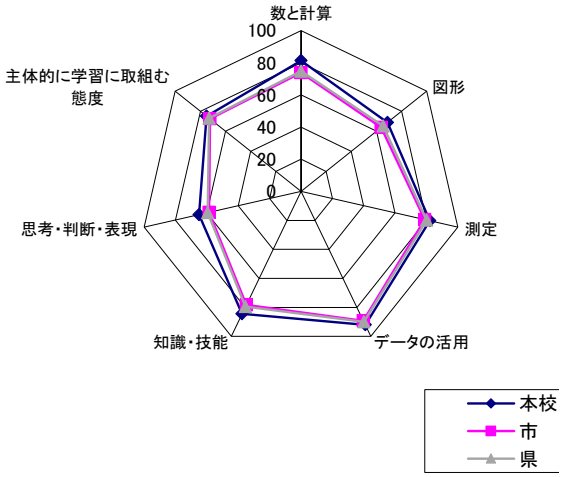
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は81.2％で，市の平均より6.1ポイント高い。特に前年度に履修した漢字の読み取り書き取りについての設問は，全て市の平均を上回った。 ●2段落構成で文章を書く設問の平均正答率は47.4％で市の平均より2.9ポイント上回っているが，無回答率は14.5％と高くなっている。	・新出漢字は，指書きやなぞり書き，写し書きといったステップを踏んだ指導を行い，その日の宿題に出すなどの反復練習を行う，ＡＩドリルを活用し漢字の習熟を図るなど，今後も継続して工夫した学習指導を行う。 ・意見文や説明文の教材を扱う際に，段落の役割や段落同士の関係について，重点的に指導する。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は57％で，市の平均より7.4ポイント高い。国語辞典の使い方の理解を問う設問の平均正答率は65.8％で，市の平均より12.5ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し，話し手が伝えたいことの中心を捉えているかを問う設問の平均正答率は42.1％で，市の平均より3.5ポイント上回っているが，無回答率が13.2％と高くなっている。	・中心となる文を見つけて要約する際に，調べたりインタビューしたりして得た情報と関連付けながらまとめる練習をする。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は93.4％で，市の平均より9.4ポイント高い。漢字のへんやつくりの理解を問う設問の平均正答率は93.4％で，市の平均より9.4ポイント高い。	・漢字の成り立ちやへんやつくりの意味について考えさせる機会を確保し，興味や関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は69.5％で，市の平均より3ポイント高い。互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめる設問では，平均正答率は59.2％で，市の平均より8.2ポイント上回っている。 ●相手に伝わるように，自分の考えを，理由を挙げながら話す設問では，平均正答率は69.7％で，市の平均より0.1ポイント下回っている。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して聞き，自分の意見をまとめて理由を明らかにして述べることができるように，話合い活動を充実させる。
書くこと	○領域の平均正答率は67.4％で，市の平均より7.8ポイント高い。自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く設問では，平均正答率は78.9％で，市の平均より11.1ポイント上回っている。 ●文章を書く設問における無回答率が高い。	・日頃から，興味や関心があるテーマについて，短い文を書かせることで，理由や考えたことなどに，気を付けて書くことができるように指導していく。
読むこと	○領域の平均正答率は67.8％で，市の平均より5.6ポイント高い。叙述を基に段落の内容を捉える設問では，平均正答率は75％で，市の平均より9.2ポイント上回っている。 ●場面の様子について，叙述を基に捉える設問では，平均正答率が30.3％と低い。	・場面の移り変わりを捉えられる人物や場所，時間などに関するキーワードを見つけて，それを抑えながら文章を読み取る練習を重ねていく。 ・読書の時間を積極的に設けることにより，文章の内容を読み取る練習をする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.3	73.8	74.8
	図形	68.7	63.7	65.3
	測定	82.1	78.9	80.1
	データの活用	92.1	89.3	90.0
観点	知識・技能	84.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	65.0	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	75.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

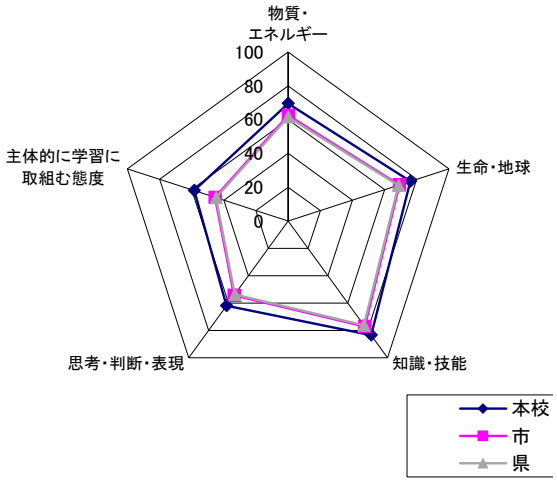
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は81.3％で，市の平均を7.5ポイント上回っている。 ○数直線上に示された分数を読み取る設問では，平均正答率が84.2％で，市の平均を17.7ポイントと大きく上回っている。 ○□を使った文章問題を表した図の構造をとらえる設問では，平均正答率が81.6％で，市の平均を12.0ポイント上回っている。 ●除法の立式をする問題では，平均正答率は67.1％で，市の平均を1.0ポイント上回っているが，正答率は高いとは言えない。	・基本的な計算力を身に付けている児童が多いと考えられる。今後もドリル等を用いて反復練習を繰り返すことで，基礎・基本のさらなる定着を図っていく。 ・文章題では題意を正しく読み取り，問題に沿って正確に立式できるよう，場面図や数直線などを用いて考える活動を継続して行っていく。
図形	○領域の平均正答率は68.7％で，市の平均より5ポイント高い。特に，円の半径とコンパスの使い方の設問では，市の平均より10.8ポイント高くなっている。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問では，市の平均より5.5ポイント低い。	・円や球についての理解を深めるため具体物などを利用して直径や半径の意味を確認し，復習問題やフォローアップ問題を活用して習熟を図る。 ・学習内容をキーワード化するなどして知識の定着を図るとともに，それらの知識を活用して理由を説明する活動を意図的に取り入れる。
測定	○領域の平均正答率は82.1％で，市の平均より3.2ポイント高い。特に，地図から道のりを読み取って求める設問では，市の平均より8.7ポイント高い。 ●身近にあるものの重さを推察する設問では，市の平均より2.3ポイント低い。	・復習問題やフォローアップ問題を活用して，理解を深めていく。また，算数の授業の中で様々な物の重さを図り，目盛を読む活動を充実させ，習熟を図る。 ・身近にあるものの重さや長さに触れる機会を設け，量感を養う。
データの活用	○領域の平均正答率は92.1％で，市の平均より2.8ポイント高い。特に，棒グラフを読み取り，２番目に多かった組を指摘する設問では，平均正答率は94.7％で，市の平均より5.8ポイント高い。	・算数の授業の中で棒グラフを書く活動を繰り返し行うとともに，社会や総合の学習など他教科の学習と結び付けながら習熟を図っていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	69.5	62.5	61.5
	生命･地球	76.0	69.2	68.6
観点	知識･技能	83.5	77.2	76.3
	思考･判断･表現	62.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	58.4	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は69.5％で，市の平均より7.0ポイント高い。 ○「電気の通り道」の電気を通す物と通さない物を選択する問題では，平均正答率は83.1％で，市の平均より9.7ポイント高い。実験を通して体験的に学んだ内容はよく理解されていた。 ○「音のせいしつ」の音の大きさによって，糸のふるえ方が変わるかという問題では，平均正答率は87.0％で，市の平均より6.4ポイント高い。 ●「じしゃくのせいしつ」の磁石の性質から極を確かめる問題では，市の平均より0.3ポイント高いが，平均正答率は41.6％と低い。	・光の性質や磁石の性質など，実験で体験的な学習を多く取り入れて，理科に関する興味・関心を高めるとともに知識の定着を図る。 ・基礎的な知識を復習する機会を設ける。同時に，言葉で的確に表現することができるよう，指定された用語を用いて説明する活動や，定型文を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。 ・複数の磁石を使って，N極・S極の関係を見つけさせたり，方位磁針や磁石を自由に動したりする活動を通して，磁石の極についての理解を深められるようにしていく。
生命・地球	○領域の平均正答率は76.0％で，市の平均より7.8ポイント高い。 ○「太陽と地面のようす」の温度計の正しい使い方の問題では，平均正答率は89.6％で，市の平均より5.3ポイント高い。 ○「こん虫のからだのつくり」の昆虫の体のつくりから昆虫であることを判断できる問題では，平均正答率は89.6％で，市の平均より19.8ポイント高い。 ●「植物の育ち方」のホウセンカの育つ順番と草丈の関係を読み取る問題では，平均正答率は41.6％で，市の平均より4.6ポイント低い。	・植物の観察などでは，具体的な数値に基づいて記録するよう指導する。また，個人で観察カードを書いてからグループや全体で話し合い，考えを共有させることで，自分の考えを深められるようにする。 ・既習内容の定着を図るために，計画的に全学年の復習をする時間を設ける。

宇都宮市立上戸祭小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対しての肯定的回答率は80.6%と高い。また，「家で，学校の授業の予習をしている」「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対しての肯定的回答率は66.3%，75.4％で，市の平均より13ポイント，15ポイント高い。このことから本校児童は家庭学習に対する意識が高く，自分から進んで学習している児童が多いことがうかがえる。今後も継続できるよう励ましていきたい。

○「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」，「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問に対しての肯定的回答率は96.1%，79.2%で，市の平均より5.4ポイント，15.9ポイント高い。子どもたちの素直で外交的な一面が見て取れた。今後も前向きで明るい生活が送れるよう励ましていきたい。

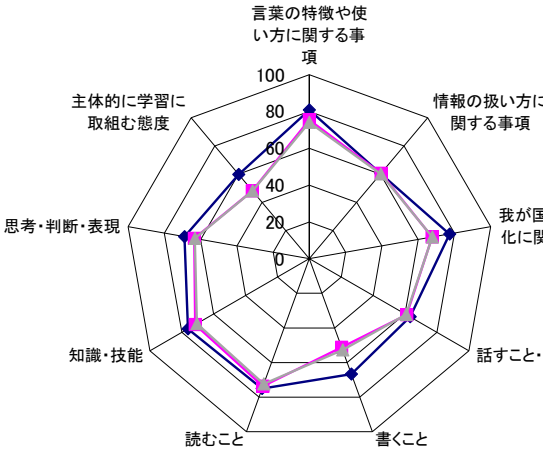
○「自分は家族の大切な一員だと思う」，「家でのきまりや約束を守っている」という質問に対しての肯定的回答率は100％，96.12%で，市の平均より6.2ポイント，7.8ポイント高い。家庭に対する意識が高く，今後とも家庭との連携を図っていきたい。

●「１か月に、何さつくらい本を読みますか」という質問に対して5冊以上読んでいると答えた割合は40.3％で，市の平均より8.7ポイント低い。読書タイムや図書室の利用の時間を増やし，多くの児童が本に親しむ時間を設けていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.8	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	60.4	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	77.3	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	63.2	61.0	60.7
	書くこと	66.7	51.2	52.8
	読むこと	75.1	73.7	72.4
観点	知識･技能	76.2	71.7	70.6
	思考･判断･表現	68.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	59.7	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

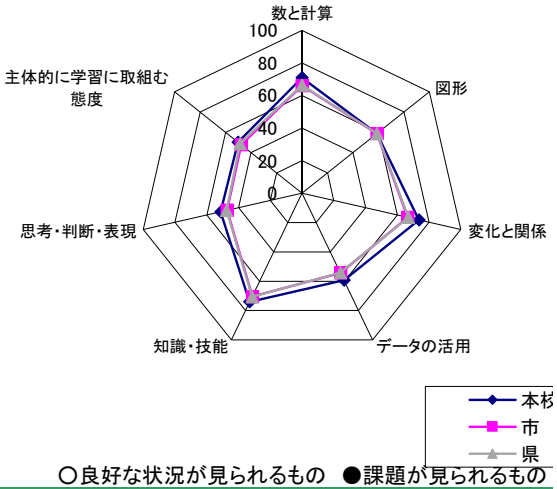
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は80.8％で，市の平均より5.4ポイント上回っている。 ○漢字を書く設問の平均正答率は94.7％で，市の平均より6.8ポイント上回っている。 ●連体修飾語についての設問の平均正答率は69.3％で，市の平均を3.2ポイント下回っている。	・問題集などを活用して反復練習を継続するとともに，日常的に連体修飾語や連用修飾語を意識した短作文作りを行う。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は60.4％で，市の平均より0.1ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し，理由や事例などを挙げながら話す設問では，平均正答率が44.0％で，市の平均より7.6ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し，中心となる語や文を見つけて要約する設問では，平均正答率が54.７％で市の平均を10.8ポイント下回っている。	・情報と情報との関係を意識して読む力を身に付けるため，キーワードに着目したり要約したりしながら読む指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は77.3％で，市の平均より9.6ポイント高い。 ○ことわざの意味を知り，正しい使い方を選ぶ設問では，平均正答率が77.3％で，市の平均を9.6ポイント上回っている。	・ことわざに関する本を読んだり，スタンダードダイアリーを活用したりするなどして，日常的にことわざに触れる機会を設けることで，ことわざのよさに気付かせるとともに，生活の中で進んで使おうとする意欲が高まるようにする。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は63.2％で，市の平均より2.2ポイント高い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の平均正答率は98.7％で，市の平均より７ポイント上回っている。 ●意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめる設問の平均正答率は40.0％で，市の平均より2.7ポイント下回っている。	・国語やほかの学習，生活の場面で，話合いの場を意図的に設定し，話合いのスキルを高めたり，輪番で司会を担当するなどして，異なる考えをまとめる経験を積ませたりする。
書くこと	○領域の平均正答率は66.7％で，市の平均より15.5ポイント高い。 ○指定された長さで文章を書く設問の平均正答率は81.3％で，市の平均を20.4ポイント上回っている。 ○すべての設問の平均正答率が市の平均を大きく上回っている。	・様々な学習場面で書く活動を積極的に取り入れていくとともに，目的やテーマに合わせて簡潔に文章を書く練習をする。
読むこと	○領域の平均正答率は75.1％で，市の平均より1.4ポイント高い。 ○登場人物の気持ちについて叙述をもとに捉える設問の平均正答率は53.3％で，市の平均を8.3ポイント上回っている。	・状況・描写を的確に捉え，そこから登場人物の心情を読み取ることができるように，読書の機会を増やし読む力を身に付けられるように指導する。

宇都宮市立上戸祭小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.9	66.1	66.4
	図形	58.9	58.9	58.8
	変化と関係	73.6	66.6	67.0
	データの活用	59.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.1	70.4	70.6
	思考・判断・表現	51.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	50.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

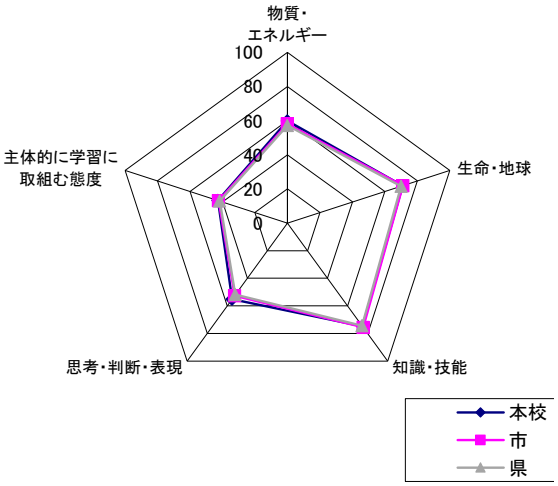
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は70.９％で,市の平均より4.8ポイント高い。 ○余りのあるわり算の計算をする問題の平均正答率は76.0％で市の平均より12.8ポイント上回っている。 ○小数×整数の計算をする問題の平均正答率は85.3％で市の平均より9.9ポイント上回っている。	・今後もパワーアップタイムやＡＩドリルを活用して基礎・基本の定着を図るようにする。
図形	○領域の平均正答率は58.9％で市の平均と同等である。 ○およその面積を選ぶ設問の平均正答率は,46.7％で，市の平均より9.6ポイント上回っているものの正答率は低い。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取る設問の平均正答率は，76.0％で市の平均より8.7ポイント下回っている。 ●直方体のある面に平行な辺を選ぶ設問の平均正答率は,52.0％で市の平均より9.2ポイント下回っている。	・今後も授業において日常生活での具体的な場面を取りあげて,量感を養えるような指導をしていく。 ・分度器などの使い方や,垂直や平行などの言葉の定義といった基本的な知識・技能の定着を図るようにする。
変化と関係	○領域の平均正答率は73.6％で市の平均より7.0ポイント高い。 ○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ設問の平均正答率は80.0％で市の平均より11.4ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の一方の値から，もう一方の値を求める設問の平均正答率は92.0％で，市の平均より6.7ポイント上回っている。	・文章問題を最後まで読んで，順序立ててテープ図や数直線で表し考えていけるように，様々な演習問題を適宜学習に取り入れていく。 ・二つの数量関係を表す式では，対応する値の組をいくつも求めながら，表に整理する活動を取り入れることで，表と式を結びつけられるよう工夫する。
データの活用	○領域の平均正答率は59.3％で市の平均より4.9ポイント高い。 ○二つの折れ線グラフから必要なことを読み取る設問の平均正答率は81.3％で，市の平均より15.9ポイント上回っている。 ○二次元表を読み取り,その求め方を説明する設問の平均正答率は25.3％で，市の平均より4.7ポイント上回っているものの正答率は低い。	・自分が導いた答えを順序立てて論理的に説明することができるように，ノートにまとめたりグループで学んだりする機会を今後も設ける。 ・社会や理科など他教科と結び付けながら，グラフの種類によって読み取れる特徴が異なることに気付かせ，グラフから必要な情報を読み取ることができるように指導していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	59.9	58.1	57.2
	生命･地球	70.9	71.1	70.0
観点	知識･技能	74.8	75.5	74.4
	思考･判断･表現	55.1	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	42.8	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は59.9％で，市の平均より1.8ポイント高い。 ○「水のすがた」の水を加熱するときに沸騰石を入れる理由を問う設問では，平均正答率が86.8％で，市の平均より6.5ポイント高い。また，グラフをもとに水の量のちがいと沸騰する温度を関連付けて記述する設問では，平均正答率が30.3％で，市の平均より5.9ポイント高い。 ○「物のあたたまり方」の水のあたたまり方から，水槽のヒーターを取り付ける適切な位置を推測する設問では，平均正答率が76.3％で，市の平均より8.1ポイント高い。 ●「水のすがた」の湯気が液体であることを問う設問では，平均正答率が9.2％で，市の平均より6.0ポイント低い。	・基礎的な知識の習得を図ることに加えて，「理科的用語」を的確に用いて表現することができるように支援する。 ・学習した内容を日常生活の中の様々な事象と関連付けて考えることで，理解を深められるよう支援していく。
生命・地球	●領域の平均正答率は70.9％で，市の平均より0.2ポイント低い。 ○「１年間の植物の成長」に関する設問では，すべてにおいて市の平均を上回っている。 ○「動物のからだのつくりと運動」の骨と骨のつなぎ目が関節であることを問う設問では，平均正答率が96.1％で，市の平均より6.6ポイント高い。 ●「月と星」の方位磁針の正しい使い方を問う設問では，平均正答率が50.0％で，市の平均より10.8ポイント低い。	・ＩＣＴを実物と合わせて効果的に活用することで，実験器具や現象の名称，定義を正確に覚えて使用することができるように指導する。 ・正しい方位磁針の使い方を身に着けられるように，操作活動を十分に取り入れ，学習や活動の中で確実に習得できるようにする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，自分で計画を立てて勉強している」という質問に対する肯定的回答率は80.0％で，市の平均より9.4ポイント高い。また「家で，学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問に対する肯定的回答率は72.0％で，市の平均より10.2ポイント高い。今後も，児童の自主的な学習の取組を称賛しながら，授業の復習をしたり自分の課題を見つけて取り組んだりして，より幅広く学習を進めていけるよう支援の充実を図りたい。

○「国語の学習は好きですか」という質問に対する肯定的回答は85.3％で，市の平均より18.6ポイント高い。また，「国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている」という質問に対する肯定的回答率は89.3％で，市の平均より12.2ポイント高い。他にも「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは，辞書を使って調べている」という質問に対する肯定的回答率は74.7％で，市の平均より14.4ポイント高い。このことから，児童は国語の学習に意欲的，主体的に取り組んでいる様子が伺えた。今後は，自分の考えを理由と合わせて書いたり，分からないことを進んで調べたりする力を，他教科にもつなげていきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」という質問に対する肯定的回答率は97.3％で，市の平均より8.9ポイント高い。また，「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的回答率は81.3％で，市の平均より12.0ポイント高い。さらに普段（月～金曜日），１日あたりのテレビやDVD，動画などを見る時間，ゲームをする時間は，市の平均よりも短い。このことから，家庭内でコミュニケーションが図られ，節度ある生活を送ることができている様子が伺える。引き続き，安定した家庭生活を送れるように，連携を図っていきたい。

●「社会の学習は好きですか」という質問に対する肯定的回答率は53.3％で，市の平均より2.5ポイント低い。しかし「分からない国名や地名があったら調べている」「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好き」「テレビやインターネットでニュースを見ている」など，関連する質問の肯定的回答率は市の平均を上回っており，社会科の内容に関心を持っている児童も多いことが伺えた。日常生活や身近な社会問題と関連させるなど，魅力的な授業展開を工夫して，児童の意欲・関心を高めていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思いを豊かに表現し，自分の考えを深められる児童の育成	・読み取ったことや考えたことを，根拠を示しながら説明する活動を継続的かつ計画的に取り入れている。 ・思考を共有する時には，視点を持って自分の考えと友達の考えを比較することで，自分の考えを吟味し深められるようにしている。 ・一人一台端末を活用することで，思考の共有を効果的に行ったり，自分の考えを吟味し深めたりできるようにしている。	・4・5年生ともに，記述式設問の正答率が市の平均と比べて上回っている。 ・「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は，4・5年生ともに80%以上で市の平均を上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では，文章の長さや段落構成に指定がある設問の記述において正答率が低かった。算数や理科では，用語を正しく使って過不足なく説明する力に課題が見られた。	書く力の育成	・字数を制限したり短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動を取り入れる。また，基礎的な知識の習得を図ることに加えて，指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。